

視点 国際リニアライダー（ILC）計画は 議論継続に

ILC計画の実現性は

国際リニアライダー（ILC）計画について、3月7日、文部科学省は、「関心を持って国際的な意見交換を継続する」と政府の公式見解を示した。誘致は、「現時点で表明には至らない」とした。

この表明に、国際将来加速器委員会は、一定の前進と受け止め、日本での実現を引き続き模索する方向を示した。これを受けた岩手県知事は、政府が公式見解を示したことを歓迎し、更に、関係国との協議をグランドアップし、政府がILCについて正式に取り組み出発の日だとコメントした。

政府の公式見解以前の動向等

政府が初めて公式の見解を示す以前においては、岩手県を始めとして、東北6県や、東北ILC推進協議会、当市、県内主要団体、北上山地沿線市町及び気仙2市1町、当市議会（ILC誘致推進議員連盟を組織）等は、あらゆるチャンネルを駆使して情報の収集や要望活動に邁進してきた。

当議会としては、北上高地に建設が決定した場合を想定し、クライオモジュールを中心とした資機材の大船渡港陸揚げや、組立て工場の立地等を視野にアクセスを含めて地域経

済は勿論、雇用拡大、産業振興の底上げに資するものと確信し、諸々の活動に傾注してきた。

政府見解後の活動は

文部科学省の公式な発表に耳を傾けてみるに、科学的意義、地域効果の可能性は必要との見地から、比較的、好意的であるとの印象は認められていた関係者は、大きく前進したとの受け止めにも見える理解をしているところもある。また、この大プロジェクトに係る成否を考察してみているに、次期の「素粒子物理戦略」に関する来年一月の会議での方向性が成否を分けると指摘されている。政府における判断について熟考するに、膨大な予算の捻出を如何にして行くのかの様な無言のサインとも受けかねない状況も見え隠れする。

そこで世界に冠たる素粒子物理学研究に関わる、巨大プロジェクトだけに、諸外国からの支援も欠くことができないものと認められる。

このプロジェクトの誘致について本県を含めて、北東北の発展を夢みて、正に地方創生の礎とし、子々孫々までを見据えたあらゆるチャンネルを活用し、是非にも実現していきたいものと考えする。

議会：主な活動日誌

2月6日	全員協議会、教育福祉常任委員会、復興特別委員会教育福祉部会	7日	第1回定例会（一般質問）
7日	光政会会派視察（～8日）、新政同友会会派視察（～9日）、会派代表者会	8日	第1回定例会（一般質問）、月例会議
8日	岩手沿岸南部広域環境組合議会定例会	11日	総務常任委員会
12日	会派代表者会	12日	教育福祉常任委員会
13日	議会運営委員会、総務常任委員会	14日	予算審査特別委員会、会派代表者会
14日	気仙広域連合議会定例会、大船渡地区環境衛生組合議会定例会、大船渡地区消防組合議会定例会	15日	予算審査特別委員会、議会運営委員会
19日	議会運営委員会、復興特別委員会幹事会、委員長連絡会議、岩手県後期高齢者医療広域連合議会定例会	19日	教育福祉常任委員会
22日	第1回定例会（初日）、総務常任委員会、教育福祉常任委員会	22日	第1回定例会（最終日）、簡易水道事業に関する市職員逮捕事件再発防止調査特別委員会・調査部会、市政調査会役員会
25日	会派代表者会	25日	議会運営委員会、総務常任委員会
26日	議会運営委員会	26日	陸前高田市及び大船渡市営林組合議会定例会
27日	第1回定例会（2日目）、産業建設常任委員会、復興特別委員会、月例会議	27日	気仙広域連合議会臨時会、大船渡地区環境衛生組合議会臨時会、大船渡地区消防組合議会臨時会
3月4日	総務常任委員会、教育福祉常任委員会	28日	全員協議会、月例会議、委員長連絡会議、市政調査会役員会
5日	大船渡市の災害復興に係る市議会からの第3次提言書提出	4月8日	簡易水道事業に関する市職員逮捕事件再発防止調査特別委員会調査部会
6日	第1回定例会（一般質問）	10日	議会運営委員会
		12日	産業建設常任委員会

編集後記

市民の皆様が、何を求めておられるかに思いを馳せながら本紙作成を心掛けております。また市民各位が健康でしかる街を目指して、我々議会も奮闘しています。

本紙の編集に当たりましては、中学生の方であっても共通理解をさせていただけるように努めています。

今後ともご意見を頂きながら、充実した紙面にして参りたいと委員会メンバーは心を新たにしておりますので、変わらぬ応援をお願い致します。

市議会だより 編集委員会

委員長 奥山 行正
副委員長 東 堅市

委員 船野 章

委員 淵上 清

委員 田中 英二

委員 森 亨

